

第183回 上級 工業簿記①

問1

副産物評価額	②	336,000 円
第1工程月末仕掛品原価	④	323,960 円
第1工程完了品原価	④	6,922,790 円

問2

(金額単位：円)

第1工程仕掛品

前月繰越	[260,990]	第2工程仕掛品	[5,680,970] ⑤
材料	[2,602,760]	(中間製品X)	[1,241,820] ⑤
加工費	[4,719,000]	(副産物)	[336,000]
		(次月繰越)	[323,960]
	[7,582,750]		[7,582,750]

副産物

前月繰越	[22,400]	(売上原価)	[330,400] ③
(第1工程仕掛品)	[336,000]	(次月繰越)	[28,000]
	[358,400]		[358,400]

問3

	前工程費	追加材料費	加工費	合計
第2工程月末仕掛品原価	③ 656,934 円	③ 0 円	③ 171,810 円	828,744 円
第2工程完了品原価	③ 5,284,036 円	③ 1,850,000 円	③ 4,606,500 円	11,740,536 円

問4

	当月販売高
副産物	② 354,000 円
中間製品X	② 2,296,000 円
製品X	② 18,496,000 円

○数字は予想配点

第183回 上級 工業簿記②

問5

(金額単位：円)

借方科目	金 額	貸方科目	金 額
本 社	18,496,000	本 社 売 上	18,496,000
(本 社) 売 上 原 価	11,490,945	製 品 X	11,490,945

⑩

問6

(金額単位：円)

借方科目	金 額	貸方科目	金 額
月 次 損 益	5,984,236	本 社	5,984,236

⑩

問7

(ア)	工程	(イ)	異種	(ウ)	主副
(エ)	正常市価	(オ)	連結 (または結合)	各②	

問8 割り切れない場合には、小数点以下第3位を四捨五入すること

(等価係数) 第1工程完了品X : 第1工程完了品Y = 1 :

0.75

③

問9

第1工程月末仕掛品原価	②	323,960 円
第1工程完了品X原価	④	6,122,632 円
第1工程完了品Y原価	④	1,136,158 円

問10

等級別総合原価計算、連産品の原価計算とも、等価係数を用いた原価按分を行うが、等級別総合原価計算では原価の発生と関係のある等価係数を用いるのに対して、連産品はそのような等価係数を設定することが出来ないため、正常市価などを基準に設定した等価係数を用いざるを得ない。

⑩

○数字は予想配点

第183回 上級 原価計算①

問題 1

問 1 [⑤ 3.24] 年

問 2 第1年度 [③ 900,000] 円 第2年度 [③ 1,200,000] 円
第3年度 [③ 2,700,000] 円 第4年度 [③ 3,000,000] 円

問 3 [⑤ 8.13] %

問 4 第1年度 [③ 12,900,000] 円 第2年度 [③ 13,200,000] 円
第3年度 [③ 14,700,000] 円 第4年度 [③ 15,000,000] 円

問 5

- (1) [⑤ 3.48] 年
(2) [⑤ 3.89] 年

問 6 [⑧ 6.13] %

問 7 [⑧ 1,296,720] 円

問 8

- (1) [⑤ 3,468,360] 円
(2) [⑤△2,517,840] 円

○数字は予想配点

第183回 上級 原価計算②

問題2

- 問1 (ア) [④ 9.5] %
(イ) [④ 11.1] %
(ウ) [④ 14,720,000] 円
(エ) [④ 9.1] %
(オ) [④ 10.8] %

問2

「事業部自体を評価するための投資利益率」の基礎となる考え方

事業部自体を投資対象と考え、事業部に対する追跡可能性を重視し、事業部に跡づけられるすべての収益、原価、投資額にもとづいて評価を行う。 ⑤

「事業部長を評価するための投資利益率」の基礎となる考え方

事業部長を評価する場合は、事業部長の管理可能性を重視し、事業部長が管理可能な収益、原価、投資額にもとづいて評価を行う。 ⑤

○数字は予想配点